

Hirano

Senior High School Attached to
Osaka Kyoiku University

大阪教育大学附属高等学校
平野校舎

 **SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL**

文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール



World-Wide Learning High School of Japan

WWL 拠点校

文部科学省指定ワールド・ワイド・ラーニング・コンソーシアム構築支援事業・拠点校





未知の領域に怯まず、考え、行動し、飛躍する。

未知なるものに怯むことなく、出会いや刺激を糧に変えて、未来の設計図を描く。
平野校舎は、それを可能にする多彩なプログラムを提供します。3年後、きっと鮮明なロードマップが完成しているはずです。



Hirano's 3 Educational Policies

生涯にわたって活用できる能力や個性の育成を目指して、
3つの教育方針のもと、豊かな学びの環境を整えています。

少数精鋭

知的好奇心を広げ、可能性を伸ばす。

1学年120名という学校規模は、真摯に勉学に打ち込める最適な学習環境です。教科の授業以外にも、WWL拠点校のプログラムや様々な学校行事、部活動など、一人ひとりが主役となり、また、本気になれる数多くのステージを用意しました。個性豊かな生徒たちが切磋琢磨するなか、それぞれの可能性を大きく伸ばします。

創造探究

課題と向き合い、未来型の思考・行動を高める。

「各界の第一人者による講義」「海外での研修や国際交流」「様々な研究手法を学びながら取り組む課題研究」…。WWL拠点校だからこそ実現するホンモノとの出会いと深い学びが、何事にも臆することのない探究心を育み、課題解決力や論理的思考力など、グローバル・リーダーに必要な「21世紀型能力」を高めます。

自主自立

自ら考え、仲間とともに目的を達成する。

学校行事のほとんどが生徒たちの手によって企画・運営されます。創立以来大切にされてきた「自主自立」の校風のもと、自分たちが一から立案したプログラムを完遂するため、全員で糸口を見つけて解決していく。そのような、チームで創りあげる行動力と、社会人として自主・自立する実践力を身につけます。

個を尊重する、 独自の教育プログラムの数々。

生徒一人ひとりの成長や好奇心に合わせて、カリキュラムを臨機応変に組み立てるとともに、将来性や個性を見極めて、きめ細やかな進路指導を行っています。
小規模校だからできる対応力で、生徒の成長をサポートします。



小規模校だから、 多様なニーズに対応できる

平野校舎の一番の特徴は、生徒・教師・保護者の距離が近いこと。1学年3クラスという小規模校のメリットをいかして、アットホームな雰囲気の中에서도切磋琢磨しながら、勉学に励むことができます。教育熱心な教師陣が、一人ひとりの個性を伸ばす学習指導や進路指導を第一に考え、保護者とも連携しながら、個々の成長をしっかりサポートします。

知的好奇心に応える ハイレベルな授業

すべての教師は毎日の授業を大切にすることを重視し、基礎基本から難関大入試の対応まで、ハイレベルな授業を実施。毎時間のように電子黒板やタブレットなどを活用しながら、効果的・魅力的な授業を展開し、主体的、対話的な学び、そして深い学びへと導きます。また、毎月隔週土曜日は4限授業を行うほか、国・数・英では習熟度別授業や少人数制授業も導入。長期休暇や早朝・放課後、土曜日などにも基礎力充実・入試対策のための補習を開講しています。

21世紀型能力を追究するカリキュラム ■教育課程(令和5年度入学者)

1年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
共通	現代の国語		言語文化		地理総合		公共		数学Ⅰ			数学A		物理基礎		生物基礎	
2年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
文系	論理国語		古典探究		文学国語		歴史総合		歴史探究		数学Ⅱ		数学B		化学基礎		
理系	論理国語		古典探究		歴史総合		歴史探究		数学Ⅱ			数学B		化学基礎		物理/生物	
3年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
文系	論理国語		古典探究		文学国語		地歴公民①			地歴公民②			数学C		数学演習β		
理系	論理国語		古典探究		地歴公民①			数学C		数学Ⅲ	数学演習β		数学演習α		化学		

は学校設定科目です。WWL拠点校として「グローバル探究」において、国際的な課題に関する課題研究や英語運用力の育成等に取り組めます。



独自の教育で、新しい大学入試に対応

ますます進展するグローバル化に対応して、新しい大学入試では、論理的な思考力や表現力、課題発見・課題解決力などが求められます。SGH指定時に実施してきた「専門家による授業」や「課題研究」を、WWLのプログラムとしてさらに発展。ディベートや討論、プレゼンテーション、論文作成など、多様な学習も一層充実させて、「21世紀型能力」をさらに高めていきます。

1年生から始まる、丁寧な進路指導

本校では、現役生の進路探しを卒業生が応援。1,2年次では、大学進学に向けて「学部・学科ガイダンス」を実施し、あわせて、卒業生の合格体験談や学習方法のアドバイスも聞くことができます。また、大阪大学等を訪問し、大学生と交流するプログラムもあります。学習のマイルストーンとして、各学年で校外模擬試験を受験する機会も設けています。

夢の実現に向けて、進学後も伸びる力を

3年次での「進路ガイダンス」は、生徒を対象に年10回程度、保護者を対象に年4回程度実施しています。大学進学後もさらに意欲的に学び、社会でも存分に活躍できるように、各大学・学部の特徴や実績もふまえながら、一人ひとりの志望や適性を第一に考えて指導します。

過去3年間の主な進学先

国公立大学など

北海道大、国際教養大、筑波大、横浜国立大、千葉大、一橋大、東京外大、金沢大、信州大、滋賀大、滋賀医科大、京都大、京都市立芸術大、京都府立大、大阪大、大阪教育大、大阪公立大、神戸市外国語大、神戸大、兵庫県立大、奈良女子大、奈良県立医科大、奈良県立大、奈良教育大、和歌山大、島根大、鳥取大、岡山大、広島大、防衛医科大 など

私立大学

慶応大、早稲田大、上智大、中央大、青山学院大、東京理科大、明治大、立教大、京都薬科大、同志社大、立命館大、大阪医科薬科大、大阪歯科大、関西大、関西医科大、近畿大、関西学院大、神戸薬科大 など

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
体育			保健	芸術Ⅰ		英語コミュニケーションⅠ				論理・表現Ⅰ		情報Ⅰ		グローバル探究Ⅰ	LHR
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
体育			保健	英語コミュニケーションⅡ				論理・表現Ⅱ		家庭基礎		グローバル探究Ⅱ		LHR	大学アドバンスセミナー(希望者)
体育			保健	英語コミュニケーションⅡ				論理・表現Ⅱ		家庭基礎		グローバル探究Ⅱ		LHR	
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	文系理科①		文系理科②		体育			英語コミュニケーションⅢ		論理・表現Ⅲ		グローバル探究Ⅲ		LHR	
			物理/生物			体育			英語コミュニケーションⅢ		論理・表現Ⅲ		グローバル探究Ⅲ		LHR

海外へ飛び出して、 21世紀型の探究心を育てる。

知識技能の習得だけでなく、豊かな感性・教養を育むこと、そして旺盛な好奇心を養うことで、世界を舞台に活躍できる人材へと成長することを目指します。

そのために使える英語力の養成や、国際交流を重視したカリキュラムを用意しています。



「ホンモノとの出会い」が、生徒を大きくする

本校では、大学・企業等で活躍する専門家の講義など、より高度な学びに参加する機会がたくさん用意されています。

さらに、ベトナム・台湾・カンボジア・ニュージーランドでの研修やオンラインディスカッション等、書籍や映像では得られない海外での貴重な学びや体験を手に入れることが可能です。

ホンモノに出会い、刺激を受けることで、知的探究心を高め、確かな学力とたくましい人格の形成を実現します。

使える力を高める、英語教育

外国人教師を含む本校教師陣が、基礎基本の学習はもとより、ペアディスカッションやパラグラフライティング、即興型ディベートやプレゼンテーション、論文作成など、様々なスキルを高めるプログラムを用意。端末ソフトなども活用しながら、大学入試を突破する英語力と「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を高める授業を実施しています。

また、GTECを受験し、3年間の英語力の伸びを継続して測定しています。

Voice

「対話」の大切さを学ぶ

広瀬 百梨さん (52期生)

私は、トビタテ留学ジャパンという制度を使って、この夏にアメリカへ短期留学しました。アメリカに行って感じたことは「対話」の大切さです。アメリカでは、時には「主張し過ぎでは？」と思うくらいしっかりと自分の意見を伝えます。最初は慣れませんでした。お互いの意見を尊重し合っていることに気づきました。

意見をしっかりと言い、しっかりと受け止める。この2つで成り立つ「対話」は、人間として必要なことである、と強く感じました。





国際交流を通して人間力を磨く

本校と協定を結び、トリアムウドムスクサ高校(タイ)と高雄師範大学附属高級中学(台湾)。この2校の高校生と相互訪問やオンラインでのやりとりを通して交流を深めています。

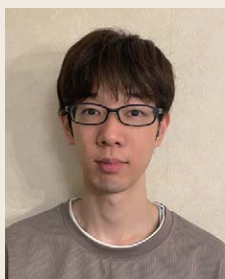
また、海外への留学についても積極的に応援。文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN」では高い合格率を誇り、2016年度は3名、2017年度は5名、2018年度は4名、2019年度は4名、2022年度は1名、2023年度は0名が、それぞれ自ら企画したプランをもとに海外に飛び出しています。



Voice

海外へ飛び出して、21世紀型の探究心を育てる

森山 広暉さん(大阪公立大学医学部医学科)



高校2年生で校内代表として参加した世界津波サミットのこと。「英語しか使えない、でも英語さえあれば誰とでも話せる」という衝撃的な体験をしました。世界中から集まった高校生たちと災害救護について話し合い、その足跡を声明文にまとめあげる濃密な内容でした。

またあるときにはタイやカンボジアへの研修に参加し、日本発のお薬手帳を薬物の適切管理システムとして広める挑戦を行いました。海を越えて初めて現地の医療を目の当たりにし、改めて日本の医療の

持つ特色を再発見することができた貴重な機会だったように思います。

私がSGHから得た学びは多岐に渡りますが、実のところ「多様性」とは初めからそこにあって自分が触れてこなかっただけなのだという気づきは新鮮なものでした。高校生までに身につけた常識はどれも爽快地壊されていきましたが、どこまでも患者さんの身に寄り添う医療者を目指す私にとって、目をこらせばそこにある多様な思考、背景に目を向けられたことは大きな糧となっています。今ではWWLと名前を変えたこのシステムですが、引き続き多くの平野生が、国境を越えた広い視点で自分のいる世界を鳥瞰できる地図を手にするのを願ってやみません。

生徒自らが企画・運営することで、 発想力や行動力を高める。

文化祭や体育祭、研修旅行、遠足などの行事を、生徒が主体となって企画から運営まで担当。
協力しながら課題を解決することで、将来の社会生活にいきる実践力を習得していきます。

4 オリエンテーション合宿(1年)

クラス・学年の親睦と高校生活のオリエンテーションを目的に、2泊3日で実施。ハイキングやBBQ、クラス活動や学年レクリエーションなどを通じて、学年全員が仲良くなります。



5 海外研修旅行(2年)

4泊6日で2年生全員がタイを訪問。旅行委員が企画した行程にもとづいて観光や文化体験を行います。また諸施設への訪問や現地の高校生との交流も行います。(令和6年度はベトナム)



- 入学式
- 始業式
- オリエンテーション合宿(1年)
- 遠足(2,3年)

4月

5月

6月

7月

8月

9月

- 球技大会
- 海外研修旅行(2年)

- 芸術鑑賞

- 終業式
- 沖縄伊平屋島体験学習(1年希望者)

- カンボジア研修(希望者)
- 始業式

- 文化祭

7 沖縄伊平屋島体験学習(1年希望者)

沖縄本島に近い離島の古民家に宿泊します。筏づくりやシークワサーを採ってのジュースづくり、ダイビングや海釣り、サイクリングなど、沖縄の自然や生活に浸りながら共同生活を楽しまします。



9 文化祭

テーマ設定から運営まで、すべてを生徒が企画して実行していきます。1年生の舞台発表をはじめ、各クラスの模擬店や飲食店、部活動、有志の発表など、生徒たちは毎年工夫を凝らして、文化祭を盛り上げていきます。



部活動



バドミントン



サッカー



バスケットボール



ハンドボール



バレーボール



テニス



陸上競技

「偏差値で測れないもの」

岡本 怜也さん (元放送委員長・令和5年度生徒会長)



本校で過ごす3年間では、いわゆる偏差値で測れないものがたくさん得られるはずで、学校行事においては、開催するか否かから話し合っていきます。企画運営・会計・司会・裏方など数えきれないほどの役割を、ひとりひとりが責任をもって行い、行事を創り上げていきます。これを一言で表すと本校が掲げている「自主自立」という言葉になります。ですから、私たち生徒会執行部はその先陣を切り「前例にとらわれない」をモットーに活動しています。この1年間で、「オンライン会計システムの導入」「時

代にあわせた会則・細則の改正」「地元企業を巻き込んだイベントの開催」など様々な施策を行ってきました。しかしどんなことでも生徒だけですめていくことは簡単ではありません。時には行き詰ることもあります。そんな時、生徒数が少ない本校では先生方が手厚く相談にのってくださいます。そして「答」を教えてくださいではなく、どのように解決すればよいかの「道」を示してくださいます。本校で過ごす3年間で、何度もぶつかり合い、何度も話し合うことと思います。そこで得た経験が次の行事へ、そして次年度へ、そして社会で活躍できる人間へと自分を成長させてくれます。それが附属高等学校平野校舎だと私は考えます。

●体育祭

10月

11月

12月

1月

2月

3月

 ●スケート講習会(1年)
 ●終業式
 ●大阪大学生物学実習
 (希望者)

 ●始業式
 ●人権学習
 ●球技大会
 ●高校生国際会議

●卒業式

 ●終業式
 ●台湾交流
 ●ニュージーランド研修
 (希望者)

10 体育祭

競技の決定、当日の運営などを体育委員会が中心となって行い、生徒たちで体育祭を創り上げていきます。伝統ある応援団の演舞やダンスの迫力には定評があります。自分たちで考えて行動することで、自主自立の力が育まれていきます。



Column

少ない校則・自由な校風

平野校舎の生徒手帳には、校則の記載はわずかしかありません。創立以来、生徒一人ひとりが、自分を律しながら「校則のない学校」をつくりあげてきました。「ルールがあるから守る」のではなく、「ルールを設けずに自由な校風を維持する大切さ」を理解し、尊重し続けているからこそ、生徒同士で互いに高めあえる校風がつくられているのです。



吹奏楽



生物



美術



軽音楽



写真



ホームメイキング



コミュニケーション啓発研究

English Salon



世界で活躍するグローバル

WWLの活動を通して、未来の世界と人類に向き合う、特別な3年間

WWLのテーマは、「世界で活躍できるイノベティブなグローバルリーダーの育成」。国内・海外の大学や高校、諸機関等が連携・協力する「ワールドワイドな学びのネットワーク」を形成し、ますます進展するグローバル社会で必要な、課題解決力や論理的思考力、実践力などを獲得します。

そのネットワークの拠点校として、たとえば、連携関係にある「大学等の授業受講」や「海外連携校等との共同学習」、「海外でのフィールドワーク・研修旅行」や「グローバルな課題に関する研究活動」など、一人ひとりの希望に沿った、選択可能な様々なプログラムが用意されています。



WWL拠点校とは

新たな社会をリードし、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するため、スーパーグローバルハイスクールの取組みをさらに発展させながら、図のような、国内・海外の高校・大学・企業・国際機関等と連携したネットワーク（連携・協働関係）を形成し、高校生に高度な学びを提供するものです。

高校生国際会議の開催や、国内・海外の高校生との学び、協働大学の授業受講など、高校生へ高度な学びを提供します。

（詳細は文科省のホームページを参照）

知識を獲得し活用するだけに留まらず、自ら考えを深めて主体的に提案し、実行する。

平野校舎WWLでは、そのような実践力を高めるため、一人ひとりの興味関心に沿った高度な学びと様々な体験を提供します。



バル・リーダーへ。

思考力や実践力を重視した、平野校舎WWLの4つのプログラム

ホンモノを体験する「国内研修・海外研修」

世界を深く知るには、書物やインターネットでの情報収集だけではなく、実際に現地に行って話を聞き、調査することが重要です。本校では、タイ研修(2年全員)やカンボジア研修(1, 2年希望者)、ニュージーランド研修(1年希望者)を通して海外の現状を実感。また、本校と連携する海外・国内の高校生が集まる国際会議なども主催することで、ホンモノを体験します。



学びを深める「専門家の授業」や「大学の授業」

高校生のときに抱く興味関心は一人ひとりの将来に大きな影響を与えます。英語を用いて筋道立てて議論する「即興型英語ディベート」(2年)など、専門家が担当する本校独自の授業もカリキュラムに組み込まれています。さらに、希望者は、大阪大学の「グローバルヘルス(国際医療)」や大阪教育大学の「教師にまっすぐ」などを受講できます。



アジアの広いフィールドで実践する「グローバル探究」

何か一つにこだわらず調査・研究を継続すること、収集した情報を論理的に考え、課題を解決していくことは、高校生の貴重な学びになっています。文系・理系の枠にとらわれず、興味関心あるグローバルな課題について、研究活動を進め、その成果はスライドプレゼンテーションやポスター発表など、様々な方法で発表します。多くの生徒は校内での発表を経て、全国的、国際的なセッションへと飛躍していきます。



「英語でのコミュニケーション」を楽しむプログラム

大阪教育大学の留学生と昼休みに英語で会話する「English Salon」や、ワークショップなどを通して諸外国の社会や文化などを学ぶ「多文化理解講座」に参加できます。また、夏休みには、海外一流大学の大学院生と英語でディスカッションする「エンパワメントプログラム」も行われます。



1

年次

グローバル探究I

課題に迫り解決する意義と方法を学ぶ。

国内・海外の課題を自分自身の問題と捉え、グループごとにテーマを設定。

研究の様々な手法を学びながら、フィールドワークや交流を通じて、研究を深めます。

1学期

オリエンテーション合宿

現代の日本や世界には、どのような課題があり、なぜ問題になっているのか。大学や国際機関、企業、行政など、様々な分野の最先端で活躍する専門家の講義を聴き、その思いと、課題を発見して解決することの意義を学びます。



日常のグループでの研究活動

大学の先生や大学院生のアドバイスを受けながら、グループで研究を深めます。さらに、ジグソー法によるディスカッションをとおして、多面的に課題の本質について考えていきます。



2学期

大阪フィールドワーク

大阪周辺の様々な機関・施設に出向き、研究テーマに関する情報収集、聞き取り調査を行い、現場でしか分からないことを学びます。フィールドワーク後の報告会では、各グループの体験を共有しあい、さらに思考を深めていきます。



カンボジア研修

1、2年生の希望者が参加。カンボジア・シェムリアップを訪問し、課題研究のアクションプランを現地で実践することで、研究のさらなる深化を図ります。本校生が提案した医療に関する啓発活動が、実際に現地で活用されています。



3学期

国内外のWWL連携校との交流

平野校舎WWLの連携校の発表会やシンポジウムに参加する機会を設けています。同じ研究を進める国内・海外の高校生と交流し、オンラインなども利用し、意見交換することで、良い刺激を受け合うことができます。



海外からの留学生との交流

大阪教育大学や平野校舎に通う留学生との交流や、夏休みに開催される海外一流大学・大学院生とのグループワーク、また大学の留学生と話すEnglish Salonなど、英語を楽しむ様々な機会が用意されています。



Voice



試行錯誤が自信に繋がる

中谷 真悠さん (京都大学文学部)

学校内でのポスター・スライドを用いた発表に加え、MY PROJECT AWARDや全国高校生フォーラムなど外部で発表する機会にも恵まれました。学校とは異なる場での発表を通してレベルの高いプレゼンテーションに触れることで、自身の研究だけでなく、発表の仕方に対しても改善点や新たな視点を発見することができました。学内発表を重ねる中でそれらを一つ一つ反映させ、最後にはより完成度の高いものを発表できたと感じています。このように試行錯誤を繰り返し発表という形で研究をまとめた経験は、研究活動への自信に繋がっています。

2 年次

グローバル探究II

グローバルな視点から課題を追究する。

海外研修旅行などで得た様々な知見と、世界の人々との出会いから得た学びをもとに、様々なグローバル課題を追究。改善に向けた提案をまとめます。

1 学期

即興型英語ディベート

英語4技能を伸ばすことを目的に、英語の授業の中で即興型英語ディベートを実施。平成28年度、即興型英語ディベート世界交流大会では、本校生がPOI賞を受賞しています。



海外研修旅行：ベトナム

研究テーマに沿ったフィールドワークを行いながら、ベトナムの社会や文化・風習を理解します。また海外協働大学であるホーチミン市師範大学校との交流・ディスカッションにより、グローバルな課題についてさらに認識を深めます。



2 学期

グローバル化が進む医療現場について学ぶ 「大阪大学セミナー」

2年生の希望者を対象に、大阪大学で開講されている授業「健康・医療イノベーション学」をビデオで聴講します。このセミナーは、大阪大学医学部附属病院・国際医療センターの協力により実現したもので、海外での医療の様子や国際医療支援の現状など、各分野の専門家による講義を通して、グローバル化が進む医療現場を学ぶことができます。医療・保健の領域で課題研究に取り組んだり、医療への道を志す生徒などが受講しており、聴講後は本校の単位が認定されます。

文部科学省「高校生フォーラム」

全国のWWL校やSGH校の生徒が一堂に会する、文部科学省・筑波大学共催の「全国高校生フォーラム」に参加します。日頃の研究成果の発表や、グローバルな社会課題の解決や提案に向けた話し合いなどを行います。



3 学期

高校生国際会議

国内だけでなく、台湾、タイ、韓国など海外の連携校も参加し、研究発表やディスカッション、ワークショップなどを行います。1年間の研究成果を披露するとともに、様々な国の高校生と一緒に議論し、交流する貴重な機会です。



「世界津波の日」高校生サミット

国連で制定された「世界津波の日」の事業として開催された青少年国際会議に、津波対策を研究するグループが参加。「観光者でも安心して避難できる町づくり」について、世界約29カ国の高校生と意見交換をしました。



Voice



多様な立場で社会問題を考える

織茂 珠貴さん（大阪大学人間科学部）

高校生国際会議は、ほとんど全ての企画運営を生徒のみの力で行いました。コロナ禍だったこともあり、多くのハードルがありましたが、全員で試行錯誤しながら乗り越えたことは良い思い出です。

高校生国際会議では、多様な立場に立って社会問題について話し合う機会を作りたいと考え、模擬国連を実施。環境問題について、それぞれの国の特色・環境・技術を踏まえ、討論しました。また、国際会議のプログラムは、海外からの参加者がいたこともあり、全編英語で。高校生の時からグローバルな視点で社会問題に真剣に向き合える機会は、とても貴重なものでした。

国内・海外に向けて、研究成果を発信。

広い視野と高い視座に立って、グローバルな課題を考察。
それぞれの進路選択・進路実現につなげます。

発信・考察

進路実現へ

Column

母子手帳国際会議

母子手帳を研究するグループが、東京の国連大学で開催された「第10回母子手帳国際会議」に参加。シンポジウムでは、カメルーン、モンゴルなど多くの国における母子手帳に関する発表を聞き、その効果と課題について学びました。



研究成果の一つとして 作成された小論文



Voice

自主・自立×総合での学び

齋藤 優哉さん（和歌山大学）・大浦 涼介さん（関西大学）

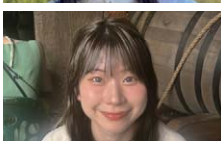


高校時代のSGHの研究ではハンディキャップと防災をキーワードにかかげ研究を行っていました。SGHで行った研究のおかげで、自分たちの興味関心をより理解することができ、卒業後の進路が明確になりました。卒業後はSGHの研究の際に用いたハンディキャップと防災を学べる進路へ進むことができました。大学入学後は、一般社団法人imarginを立ち上げ、子どもたちに何かできることはないかと日々模索しています。現在は、この平野校舎の生徒たちとも協力して活動しています。

Voice

興味・関心×継続

湯川 歩美さん（関西学院大学）・村田 鈴さん（関西大学）



中学校の探究活動で「水筒にみられるカビの現状」について研究し、さらに知識を深めるために高校でも研究を続けました。日常的に飲む飲料に含まれるカビの生育抑制作用を調べ、この研究をもとに作成した論文がコンクールで入選し、テレビにも取り上げて頂きました。この成果を大学入試でも活かしたいと考え、自己推薦入試を選択しました。人前での発表や論文作成の経験は、面接や自己推薦文の構成の際に大変役に立ちました。

Voice

日々の活動が進路につながる

山辺 纏さん（筑波大学）



私は高校生国際会議と高校生フォーラムで特に力を注ぎました。2年次のグローバル探究Ⅱでは、日本人の英語への苦手意識をテーマに研究を行いました。もともとは日本や海外の教育制度に興味があり、自身の関心とは少し異なるテーマでしたが、研究を進める中で教育学そのものに関心を持つようになり、進路を決めるきっかけとなりました。高校生国際会議では研究発表だけでなく、生徒代表として企画運営も経験し、考えを伝え集団をまとめる方法を試行錯誤しました。それらの活動を通して、英語力の高い人やリーダーシップのある人から刺激を受け、自身のレベルを高めるモチベーションを維持することができました。推薦入試では、英語力だけでなく、自身の考えを相手に伝える力も評価されるため、日々の授業を大切にしつつ、実践を通じて学びを得ることの重要性を感じました。

進路

過去3年間の主な進学先(R3～R5)

国公立大学など	京都大 8名、大阪大 23名、神戸大 13名、大阪公立大 25名、大阪教育大 15名 北海道大、旭川医科大、国際教養大、筑波大、一橋大、東京外国語大、東京藝術大、東京都立大、横浜国立大、千葉大、信州大、山梨大、金沢大、三重大、滋賀大、京都府立大、京都府立医科大、京都市立芸術大、兵庫県立大、神戸市外国語大、奈良県立医科大、奈良県立大、奈良女子大、奈良教育大、和歌山大、和歌山県立医科大、岡山大、広島大、鳥取大、島根大、山口大、香川大、愛媛大、佐賀大、鹿児島大、琉球大、防衛医科大など 計166名
私立大学	早稲田大 7名、慶應義塾大 5名、上智大 4名、関西大 116名、 関西学院大 73名、同志社大 86名、立命館大 72名、 大阪医科薬科大 16名、京都薬科 8名、神戸薬科大 5名 青山学院大、中央大、国際基督教大、東京理科大、東京女子医科大、明治大、日本大、法政大、立教大、京都外国語大、京都産業大、 京都女子大、同志社女子大、龍谷大、大阪歯科大、関西外国語大、関西医科大、近畿大、摂南大、兵庫医科大、武庫川女子大、甲南大、 甲南女子大、神戸女学院大、畿央大、立命館アジア太平洋大 など 計783名

総合型選抜入試、指定校を含む推薦入試などによる進学先

令和6年度	国公立	9名	京都1 大阪1 神戸2 大阪公立2 筑波2 横浜国立1
	私立	36名	慶應義塾1 早稲田1 同志社2 関西1 関西学院6 大阪医科薬科2など
令和5年度	国公立	3名	大阪1 国際教養1 大阪公立1
	私立	32名	慶應義塾1 早稲田1 明治1 同志社2 関西1 立命館1 関西学院6 大阪医科薬科1など
令和4年度	国公立	9名	大阪3 神戸1 広島1
	私立	28名	慶應義塾1 上智1 早稲田1 同志社1 関西学院2 大阪医科薬科(医医)1など

(1) 将来、真に学び続けたい分野へ (1年から始まる体験型進路学習で高い現役進学率を維持)

本校では、これまで、国公立大学や私立大学への高い現役進学率を誇っており、ここ数年では80%前後を維持、およそ30～40%の現役生が国公立大学へ、40～50%が私立大学に進学しています。

そのような中で、最も大切にしていることは、真に学び続けたい分野を見つけ、大学進学後も意欲的に学びを深めていくことです。

偏差値だけでなく各大学の特徴や研究分野を理解して進路選択ができるよう、例えば、大阪大学や大阪公立大学などを訪問する「大学見学会」や、本校卒業生が大学や実社会での経験を語る「卒業生による学部・学科ガイダンス」など、様々な進路学習を通して、興味・関心の有る分野や学びたい大学・学部などを決めていくきっかけをつくっています。



(2) 総合型選抜入試(推薦入試)にも強い進学指導

WWLの活動として取り組む「課題研究」や「海外研修」などの体験型・探究型の学びは、大学進学後も学び続けたいという意欲につながります。高校時代に取り組んだ研究内容やその取り組みが評価され、総合型選抜入試(推薦入試)での合格者が増加しています。



卒業生による学部ガイダンス

(3) 少人数規模をいかした手厚い進路指導

少人数規模の良さをいかし、一人ひとりの志望や適性を第一に考えた手厚い進路指導を行っています。

(4) 保護者対象の進路ガイダンスも充実

3年次では、進路に向けたガイダンスを保護者対象に4回実施しています。進路先を決定するのは最終的には自身で決めることですが、進路選択や大学受験への向き合い方、また、それぞれの時期にあった学習方法などについてアドバイスをしています。

進路指導主事より

- ・1～2年次では、SGHやWWLの課題研究や海外研修などの活動をとおりて、大学で学びたいことや取り組みたい研究テーマを明確にして進学する生徒が増えてきました。
- ・3年次では、進路指導主事による進路ガイダンスを年間9回程度開き、大学・学部の情報提供のほか、入試に向けた学習方法や対策、心構えなどについて丁寧にアドバイスをしています。さらに、学年や進路部の教員が、生徒全員一人ひとりの進路希望や受験校についての検討会議を定期的に行き、必要に応じて面接練習・小論文指導、生徒との面談を繰り返し行っています。これも少人数だからできる本校のメリットだと思います。

成長の基礎づくりから 大きな飛躍へ。

優しさと自由な校風。

高校時代はあまり優秀な生徒ではなかった。数学で0点をとったことも、135人中132番になったこともある。漠然とミュージシャンになりたいと思っていたのだが、気がつけば卒業が迫っていた。とりあえず浪人した。それでも何とか医師になり、それなりに人様のために仕事ができているのは、多分、大阪教育大学附属高等学校の中でも平野校舎だけが持つ、自由で優しい校風があったからだと思う。僕が出会う同窓生は皆、渋いオンリーワンの仕事をしている。それが平野校舎なんだと思う。



貴島 晴彦さん(11期生)
大阪大学大学院医学研究科教授

人と人とのつながりが伝統であり、 大きな財産です。

平野校舎の何よりの特徴は、小規模校であること。そのため、同級生はもとより前後の学年の人たちとの交流が盛んで、幅広く濃厚な人間関係を形成できました。このような人とのつながりが、平野校舎の伝統だと思います。私は医学部を卒業し、現在は大学病院で脳神経外科医をしていて、医学部に進学した多くの同級生などと幅広い交流があります。また医療以外でも様々な分野で活躍する友人たちとの交流も頻繁であり、大きな刺激を受けています。

自分のペースで過ごしたメリハリのある高校時代。

高校の成績は真ん中くらいでしたが、京都大学に現役合格し、その後助手、助教授を経て教授となり、内閣官房参与を歴任。現在ではテレビのニュース解説の仕事もしています。平野校舎の最大の特徴は、優秀な教師陣と京都大学にも通ずる自由な校風。自分のペースでメリハリある高校時代を過ごすことができ、何物にも代えがたい、とても素敵な時代でした。生徒数の少なさもあり、濃密な友人関係に恵まれ、今でも当時と変わらない交友関係が続いています。

卒業生からのメッセージ



荻田 和秀さん(10期生)
りんくう総合医療センター
産婦人科部長
(漫画「コウノドリ」のモデル)



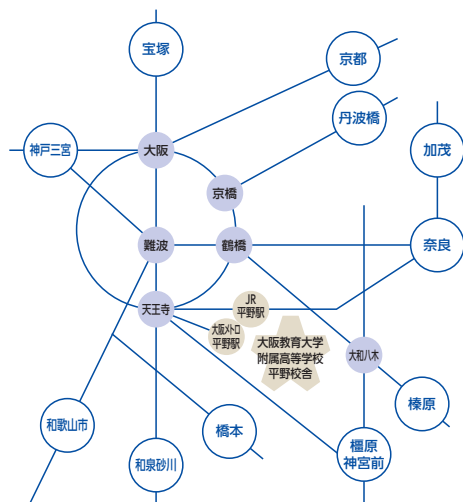
藤井 聡さん(13期生)
京都大学大学院工学研究科教授・
内閣官房参与を歴任

所要時間の目安

JR奈良	約60分	JR大和路線	JR平野	徒歩約18分	大阪教育大学附属高等学校平野校舎
近鉄奈良	約65分	近鉄	大阪上本町	谷町九丁目	大阪メトロ谷町線(14分)
大和八木	約65分	近鉄	梅田	東梅田	大阪メトロ谷町線(24分)
阪神神戸三宮	約70分	阪神	JR	天王寺	大阪メトロ谷町線(9分)
JR三ノ宮	約65分	JR	JR	天王寺	大阪メトロ谷町線(9分)
宝塚	約70分	JR	JR	天王寺	大阪メトロ谷町線(9分)
和泉砂川	約80分	JR	JR	天王寺	大阪メトロ谷町線(9分)
和歌山市	約90分	南海	新今宮	天王寺	大阪メトロ谷町線(9分)
橿原神宮前	約65分	近鉄	大阪阿部野橋	天王寺	大阪メトロ谷町線(9分)

通学エリアイメージ

住居から90分以内で通えるエリアが通学範囲となっています。



大阪教育大学附属高等学校 平野校舎

〒547-0032 大阪市平野区流町2丁目1番24号

TEL:06-6707-5800 FAX:06-6709-1711

<https://www.hirano-h.oku.ed.jp/>